

インパクト志向金融宣言

第2回ワーキングレベル会合

2022年4月20日 10:00～12:30
オンライン開催/リアル(JICA竹橋)

本日のアジェンダ

- | | | |
|----|-------------------|-------------|
| 1. | 新規参加予定機関・新運営委員の紹介 | 10:00～10:15 |
| 2. | 運営委員会からの報告・議論 | 10:15～10:45 |
| 3. | 自由議論 | 10:45～12:00 |
| 4. | ご要望事項 | 12:00～12:10 |
| 5. | 今後の予定・事務局連絡 | 12:10～12:15 |
| 6. | (任意:名刺交換会) | 12:15～12:30 |

1. 新規参加機関・参加予定機関のご紹介

確認書ご提出済の機関を記載しています

| 署名日 | 機関名 | 本日まで参加者 |
|-------|---------------|---------|
| 4月1日付 | 住友生命保険相互会社 | 田中 淳一 様 |
| 5月1日付 | クラウドクレジット株式会社 | 小松 真也 様 |

本日オブザーバー機関

- ・株式会社DGインキュベーション
- ・株式会社グロービス・キャピタル・パートナーズ
- ・ティー・ロウ・プライス・ジャパン株式会社

2. 運営委員会からの報告・議論

- ・ 2月～4月に計3回の運営委員会を開催

第1回 (2月21日)

- ✓ 1年後を目途に公開する内容・レポートの内容について議論
- ✓ 具体的な活動内容や公開内容の議論に入る前に、まずは**本イニシアティブの目的**を明確にして(TOCを描いた上で)、その後に活動及び1年後のレポート公開内容を考えるべきとの意見で一致
- ✓ 本イニシアティブの位置づけを整理する際には、**他の類似イニシアティブとの差異**を俯瞰的に整理し、重ならない部分を本イニシアティブで取組んでいくとともに、**他のイニシアティブと上手く連携**できるところは協業していく
- ✓ 本イニシアティブは、「**金融機関横断的**」で「**インパクト投資を実務でやっている人が集まっている事**」が強みであり、実務に近いベストプラクティスを示していく事が可能
- ✓ 活動内容には、**裾野を広げる活動と深みを増す活動**があり、両輪で進めていくべき

第2回 (3月24日)

- ✓ 第1回で挙げた意見を基に、事務局で**TOC案**を作成して提示、それに基づいて議論
- ✓ まずは用語の定義を明確にしておいたほうが良いとの意見が挙がり、**インパクト投資やインパクト志向金融の定義**について議論→**インパクトファイナンス**とすることで合意したがインパクトの定義については引き続き要検討
- ✓ 「**インパクト志向金融**」というのは**金融機関としての目的(金融の役割や使命)**であり、「**インパクトファイナンス**」は**目的を実現するための手段**であるとの意見で一致。目的と活動計画がつながっていることが重要
- ✓ 署名機関で**具体的にどういった活動を実行していくか**、特に**最初の1年の活動内容**を考えることが重要
- ✓ 金融庁「**インパクト投資に関する勉強会**」との整理や運営委員会とWL会合の**役割の違いの整理が必要**

第3回 (4月18日)

- ✓ 第2回での議論を基に、①「**インパクト投資に関する勉強会**」との整理や運営委員会とWL会合の**役割の違いの整理**、②**インパクトファイナンスの定義に関する議論の整理**、③**戦略/TOC**、④**1年後の成果を念頭においた活動計画等**について議論
- ✓ 1年後の成果を念頭においた活動計画の内容やプロGRESSレポートの内容について合意
- ✓ プロGRESSレポートの発行は、宣言発足1年度を過ぎた12月～1月を目指すことで合意
- ✓ 分科会の内容については、運営委員からの意見も踏まえつつ、署名機関へのアンケートで意見を集めることで合意

2. 運営委員会からの報告・議論

・ 第1回運営委員会(2月)での議論

全体戦略 について

- ✓ **本イニシアティブの目的を明確**にした上で(TOCを描いた上で)、活動及び1年後のレポート公開内容を考えるべき
- ✓ 21世紀金融原則、UNEPFI、PRI等、他のイニシアティブや、環境省の取組みとの差異を俯瞰的に整理し(**本イニシアティブの特徴・強みを整理**)、重ならない部分を本イニシアティブで取組んでいけると良い
- ✓ 他のイニシアティブと上手く連携できるところは**協業**していくべき

公開・ブ ロgress レポート について

- ✓ レポートの作成自体が目的化してはいけないが、**マイルストーンと位置づけると作ったほうが良い**
- ✓ GSGが毎年発行する「**日本におけるインパクト投資の現状**」との**住み分け、協業の検討**が必要(※GSGレポートは残高の調査、本イニシアティブのレポートは宣言をした金融機関の集まりという違い)
- ✓ 本イニシアティブは、「金融機関横断的」「インパクト投資を実務でやっている人が集まっている事」が強み。**実務に近いベストプラクティス、業態ごと(生保、AM、銀行等)のベストプラクティス**を示していくことが重要
- ✓ 「実行した」という情報は各金融機関のプレスリリースで分かるため、その後の**IMMのフォローアップ状況**(エンゲージメント、お客様側のベネフィット等)を開示できると良い
- ✓ 残高だけではなく**このイニシアティブ自体のインパクト**を公開できるとよい(将来的に)

活動内容 について

- ✓ **裾野を広げる活動と深みを増す活動**があると考えられる。裾野を広げるにはメディア活用も検討すべきで、金額や署名機関数、どれくらい増やすかという目標を定めていった方が良い。深みを増すにはアセットクラス毎の手法論やグローバルなベストプラクティスの共有などが良いのではないか
- ✓ インパクト思考は因果関係を描くことが基本となる。ロジックモデルに限らず**インパクトのパスウェイを可視化していくという基本動作について、基本的なパターン**のようなものが作れると良い
- ✓ 地域金融機関の取組は地域が異なっても共通の事項も多いため、ある程度、**共通のフレーム、インパクト創出のパターン**のようなものが出来ると良い。そのようなベースがあると取り組みが進めやすくなる
- ✓ 「インパクト投資」の**定義を明確に**することが重要(現場の実務者が腹落ちするような)
- ✓ **グローバルな議論とのずれが出ないように、整合性を担保**していくべき

運営につ いて

- ✓ 組織の自立・費用負担の在り方等も議論していくべき
- ✓ 委員長・副委員長を置くべき → **委員長金井氏、副委員長松原氏で決定**

2. 運営委員会からの報告・議論

- ・ 第2回運営委員会(3月)での議論

定義について

- ✓ 用語の定義を明確にしておいたほうが良い。「インパクトファイナンス」であれば、投資、融資、リース等の金融手法全般のほか、付随的なコンサルティング業務等も含む用語として適切であり、「投融資」よりも英語での発信に適している。
- ✓ 「インパクト志向金融」とは、金融機関がその経営においてインパクト志向を取り入れていくことを指しており、**金融機関としての経営の在り方そのもの**。
- ✓ 本宣言は、インパクト志向経営の実現と、プロダクトレベルのインパクトファイナンスの推進の両方の側面を含んでいる。
- ✓ インパクトファイナンスとは何かといった議論も別途必要。(例:地域金融におけるインパクト等)

TOC・活動計画

- ✓ 「インパクト志向金融」というのは金融機関としての目的であり、「インパクトファイナンス」は目的を実現するための手段。**金融の役割や使命とは何かという点をミッション・ビジョンとして位置付け、それを具現化するために戦略や活動計画を置き、両者がつながっていることが重要**。
- ✓ 5年先に何を実現するのか?といった視点とともに、**まずは最初の1年で何を実施するのか**を決めることも重要。
- ✓ 署名機関で**具体的にどういったアクションを実行していくか**を考えていかないといけない。
- ✓ プロダクトやサービスレベルでのインパクト志向だけではなく、金融機関が会社としてインパクト志向になっているかが重要であり、**会社とプロダクトで言行一致**となることが重要。(それを表すTOCであるべき。)
- ✓ 「インパクト志向金融」は「インパクトファイナンス」というプロダクトを積み上げることで実現していくという仮説だとすると、この仮説が正しいのか、別のプロセスもあり得るのかを本宣言をとおして議論していけると良い。仮説を実証していくことでセオリーとなる。

その他

- ✓ 「インパクト投資に関する勉強会」や GSG-NABとの整理、運営委員会とWL会合の役割の違いを整理をする必要がある。
- ✓ 参加金融機関に取り組みの課題等について意見を聞くのも良いのではないか。

2. 運営委員会からの報告・議論

- 第3回運営委員会(4月)での議論内容

1 「インパクト投資に関する勉強会」との整理や運営委員会とWL会合の役割の違いの整理が必要

P8参照

2 第2回の議論では定義があいまいで議論が発散したところがあったので整理が必要
※インパクト志向の金融手法全般を「インパクトファイナンス」とすることで合意
インパクトファイナンスとは何かについては、別途議論が必要

P9～11参照

3 戦略・TOCについては、第2回の議論で事務局案を巡るクラリフィケーションの質問はあったが、「本宣言は金融機関の経営の在り方としてインパクト志向を目指し、それを実現するための手段としてインパクトファイナンスを実施していく取り組みである」との整理で一致しており、基本的には事務局案をベースとしてWL会合に諮る

P12参照

4 1年後のどのようなプログレスレポートを出せるかという意識で物事を進めていくことは必要であり、レポートとして何を発表できるかを早期に示すことが必要

P13参照

5 活動計画案についても早期に示す必要がある。参加金融機関に何をやりたいのか意見を聞いたほうが良いとの意見もあった

P14～参照

WL会合(全社実務者会合)、運営委員会、その他のプラットフォームの 位置づけと住み分け

主に事業者中心
の活動

主に投資家・金融機関中心の活動

SIMI 社会的インパクト・マネジメント・イニシアティブ
Social Impact Management Initiative

インパクト志向金融宣言

Japan Impact-driven Financing Initiative

- 経営のコミットメント
- インパクトファイナンスの実践

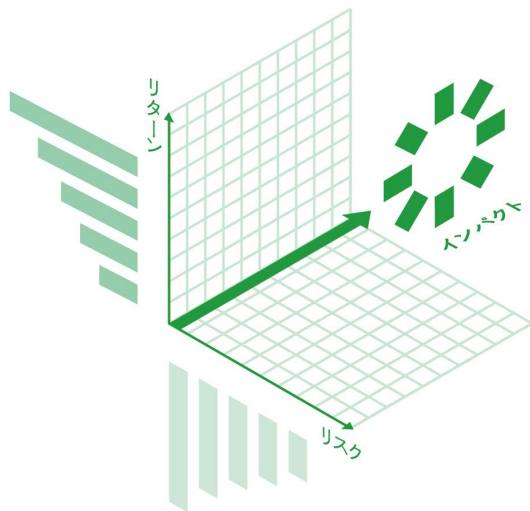
運営委員会

個別・イニシアティブとし
ての実践を推進する中
心的存在

「インパクト投資に関する勉強会」 (金融庁・GSG-NAB共催)

- インパクト投資の知識の吸収の場
- 関心のある人を広く受け入れる

- 経済的リターンと並行して、ポジティブで測定可能な社会的・環境的インパクトを同時に生み出すことを意図する投資
- 投資判断は、リスク・リターン・インパクトの三次元評価に基づく



上図出典:UBS “Doing well by doing good”2016を基に作成

インパクト投資の4要素

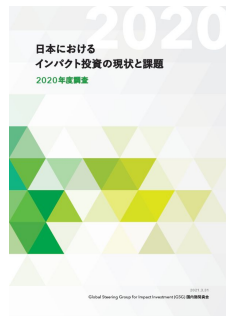
1. 意図がある
2. 経済的リターンと社会的・環境的インパクト
3. 広範なアセットクラスを含む
4. インパクト測定を行う

「日本におけるインパクト投資の現状と課題」における算入要件は変遷してきている

2018年

①財務的リターンと並行して、ポジティブで測定可能な社会的及び環境的インパクトを同時に生み出すことを意図する投資行動

②インパクトの測定(アウトプットかつ/またはアウトカム)及びマネジメントを投資前に実施している



2019/2020年

①財務的リターンと並行して、ポジティブで測定可能な社会的及び環境的インパクトを同時に生み出すことを意図する投資行動

②インパクトの測定(アウトプットかつ/またはアウトカム)及びマネジメントを投資前および**投資実行後**に実施している**(赤字が追加)**

2021年

①財務的リターンと並行して、ポジティブで測定可能な社会的及び環境的インパクトを同時に生み出すことを意図する投資行動

②インパクトの測定(アウトプットかつ/またはアウトカム)及びマネジメントを投資前および投資実行後に実施している

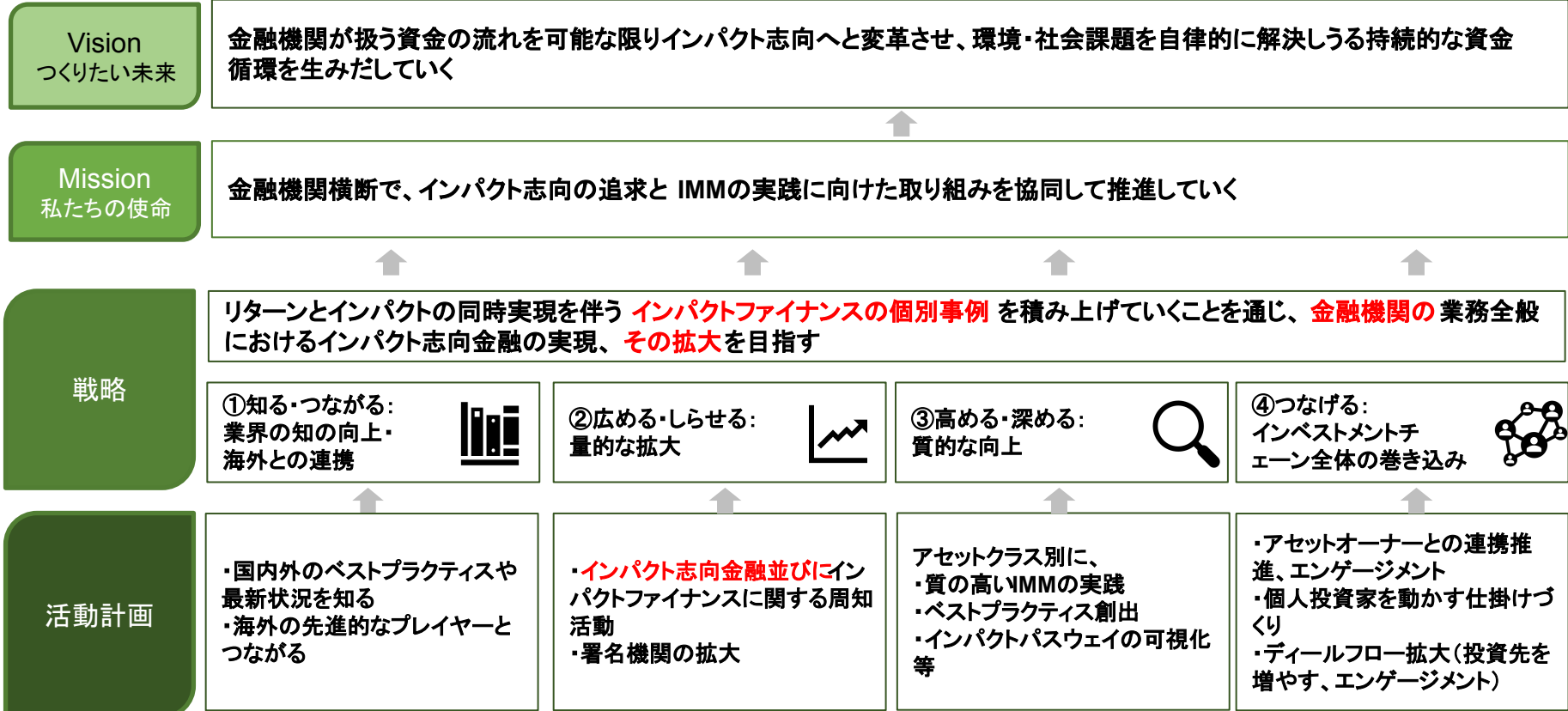
③**インパクトの測定(アウトプットかつ/またはアウトカム)及びマネジメントの結果・内容が最終投資家に共有されていること(赤字が追加)**

参加金融機関の活動を把握するため、インパクト志向金融宣言の活動において整理する インパクトファイナンスのカテゴリー(案)

- 今後、運営委員会メンバー等と詳細については議論をしたいがイメージとしてこのようなカテゴリーを設けて、それぞれについて議論を深めていけばよいのではないか。(本日は内容の詳細までの議論はしない)。

| インパクトファイナンスの各特徴 | A | B | C | D | E |
|--|---|---|---|---|---|
| ポジティブインパクト創出を目指す企業や事業にファイナンスしている。 | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ |
| インパクト創出にかかる何らかの事前事後に評価(定性評価のみ、あるいは、アウトプット指標の計測のみ)している。 | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | |
| インパクト創出にかかるアウトカムの定性的なものに加え定量的計測を行っている。 | ✓ | ✓ | ✓ | | |
| インパクト創出について、目標設定がなされておりアウトカムの定性的なものに加え定量的計測を行っている。 | ✓ | ✓ | | | |
| 金融機関としての明確なマネジメントがあり、結果的に金融機関の貢献(追加性)が認められる。 | ✓ | | | | |

TOC(Update版)



※インパクト志向金融とは、金融機関がその経営においてインパクト志向を取り入れていくことを指す
インパクトファイナンスとは、インパクト志向の金融手法全般を指し、投資、融資、その他の金融商品を含む

活動計画具体案

戦略

①知る・つながる：
業界の知の向上・
海外との連携



②広める・しらせる：
量的な拡大



③高める・深める：
質的な向上



④つなげる：
インベストメントチ
ーン全体の巻き込み



活動計画 (1年目)

大方針

- ・1年目は署名機関数を増やす活動は積極的には展開しない(署名を希望する機関には参加してもらう)
- ・1年後の公開内容を意識した活動を中心としていく

・国内外のベストプラクティスや最新状況を知る(ワーキングレベル会合での署名機関間共有、海外事例紹介)

・「インパクトファイナンス」の定義明確化

・質の高いMMの実践とベストプラクティス創出
・1年の成果の公開

・アセットオーナー連携方針の検討

プログレスレ ポート

- ・インパクトファイナンスの特性・特長を整理
- ・インパクト志向経営の考え方を可視化・言語化した事例集(署名前からやっていることも含む)
- ・署名後の成果/本イニシアティブとしての取組み
例:署名機関の取組みカタログ:個別商品の開発、個別の具体的MM事例、部署立上げ、社内の議論等
- ・短期～中期の活動計画案

活動計画 (中期 :2～3年 目)

・国内外のベストプラクティスや最新状況を知る
・海外の先進的なプレイヤーとつながる

・「インパクトファイナンス」並びに「インパクト志向金融」の周知活動
・新規署名機関の獲得活動

・質の高いMMの実践とベストプラクティス創出(アセットクラス別)
・テーマ別インパクトパスウェイの可視化等

・アセットオーナーとの連携推進、エンゲージメント
・個人投資家を動かす仕掛けづくり
・ディールフロー拡大(投資先を増やす)、エンゲージメント

※2年目以降の新規活動は緑で表示

大きな方向性:1年後の「成果」を軸に考えていく

【対外発表内容】=>事務局取りまとめ

<5月頃>

①戦略・今後の活動計画発表

<1年後(12月~1月)>

- ①インパクトファイナンスの特性・特長を整理(+可能であれば数字も公開)
- ②インパクト志向経営の考え方を可視化・言語化した事例集(署名前からやっていることも含む)
- ③署名後の成果/本イニシアティブとしての取組み

例:署名機関の取組みカタログ:個別商品の開発、個別の具体的MM事例、部署立上げ、社内の議論等

【その他の活動(案)】=>署名機関主導 * 皆様のご関心に応じて希望があれば作成

<テーマ型分科会>

- ・地域金融分科会
- ・Social指標の開発(企業拘束性についてS認証について)
- ・インパクトとリスク・リターンの統合的な投資判断(インパクトフロンティアとの連携)
- ・インパクトの測定・マネジメント(基本的な知識・実践の推進、会社の中での浸透)
- ・海外優良事例の研究・普及

<アセットクラス別分科会>

- ・VC分科会
- ・アセットマネジメント/アセットオーナー分科会

<エリア型>

各活動の詳細やメインメンバー決めを目的としたアンケートを実施

目的: 各活動の具体的な内容への要望や、誰が活動を推進・協力していくかを確認する

質問内容: ①課題、お悩み

②貢献できる/したいアクション

- ・インパクトファイナンス定義の整理
- ・PR活動(ウェブ、セミナー、外部メディア)
- ・IMMベストプラクティス共有
- ・アセットオーナー連携
- ・分科会の立上げ、リード
- ・海外事例の調査・共有

3. 自由議論

10:45～12:00

4. ご要望事項

12:00～12:10

5. 今後の予定・事務局連絡

12:10～12:15

【年間スケジュール】

